

沖縄本島周辺の離島航路船

2020.10.6 池田良穂

沖縄の親戚の集まりに出席するために那覇に滞在した機会を利用して、沖縄本島の周辺離島の新造客船を追いしました。

宿は、最近では定宿としている泊港の内航客船ターミナルビル「とまりん」の中にある「かりゆしアーバンリゾート・ナハ」で、少し奮発して14階のプレミアムフロアの海側の部屋を予約しました。もちろんGOTOトラベルを利用して。ここからは、泊港に出入港する内航客船だけでなく、那覇本港そして那覇新港(安謝港)に出入りする船もすべて部屋から見る事ができます。

今回の旅行で撮影すべき船として、あらかじめリストアップした新造船は、渡嘉敷村の「マリンライナーとかしき」、粟国島の「ニューフェリーあぐに」、津堅島航路(この航路は泊発着ではありませんが)の「ニューくがに」の3隻でした。しかし、泊港に出入りする船を眺めていると、双胴の「タクマ3」という船を発見。インターネットで調べると、この船は、第1交通の子会社の第1マリンサービスが泊港～本部・渡久地港間に就航させている船で、2019年に試験的に那覇港～本部間に投入した「タクマ2」(日本の旅客船I p.79に掲載)の代替船とのことのようにです。「タクマ2」は那覇本港に繋がれているのが車窓から確認できました。「タクマ3」は中古船だと思うのですが、前身をご存じの方はご教示ください。



- ① 渡嘉敷村の村営高速船「マリンライナーとかしき」で、会誌 Cruise & Ferry27号の新造船紹介でも掲載していますが、ツネイシクラフト&ファシリティーズで建造された新鋭船です。同誌には、写真が私の撮影となっていますが、これは誤植で、造船所および渡嘉敷村HPからの写真で、今回初めて自分で撮影ができました。



② 栗国村の新鋭フェリー「ニューフェリーあぐに」です。



③ この船は1日1往復で、泊港を9時55分にて、約2時間で栗国島に到着し、14時10分に出港して16時半頃に泊港に戻ります。
(写真上)泊港を出港時。後ろが「とまりん」です。
(写真中)ブリッジの上のデッキから見た航跡です。
(写真下)栗国島に入港時の写真です。



④ 勝連半島先端の平敷屋漁港と津堅島を結ぶ高速旅客船「ニューくがに」です。朝と夕方の2往復しており、昼間は「フェリーくがに」が3往復運航されていました。待合所には「島には高齢者が多いので、今はこないで!!」というポスターが張られていました。



⑤ 泊港と本部・渡久地港を結ぶ航路に、1日4便運航されている第1マリンサービスの双胴高速船「タクマ3」。親会社はバス・タクシーを運行する第1交通で、陸上交通の渋滞に対応するために就航させているようです。これまでは、那覇港から単胴の「たくま2」が就航していましたが、今は、泊港からの運航になっています。

以下は、泊港でおなじみの船たちです。



⑥ 大東島航路の「だいとう」です。初めて停泊中以外の写真が撮れました。



⑦ 座間味村の「クイーンざまみ3」です。



⑧ 座間味村の「フェリーざまみ3」です。



⑨ 泊港に停泊する「フェリーざまみ 3」(左)と「フェリーとかしき」です。右にそびえるビルが「とまりん」です。



⑩ 久米島航路の「フェリー海邦」(上)と「フェリー琉球」です。上の写真は入港時に泊大橋のたもとで、下の写真はホテルの窓から荷役中の姿を撮ったものです。



⑪ ホテルの窓から見た那覇港の全景です。手前が泊港、橋の向うが那覇新港で RORO 貨物船が 4 隻見えます。